



毎月十五日発行 所大社 宗像 電話 〇八二一-三三 〇九四-六二-一三三 定価 一年送料共 一〇〇〇円

第十六回 宗像王位戦

森安秀光九段を迎えて



境内に楠の木の新緑の香りが漂う中、去る五月二十三日(日)午前八時より西日本アマチュア将棋会の最高峰である「宗像王位」の座を競う、第十六回宗像王位戦。主催「宗像王位」日本新聞社、主管「日本将棋連盟」宗像支部、後援「日本将棋連盟」宗像市町村会、テレビ西日本が、日本将棋連盟より、森安秀光九段を審判長としてお迎えし、宗像大社斎館に於いて開催された。

山口九段(福岡県)福岡都市圏・北九州・筑豊京築・筑後地区六名の各県で予選を勝ち抜いてきた代表二名ずつと、前年度王位の二十三名で、最年少の大城十三段、若手高段生、大学生・社会人等多士済々な顔ぶれと、初出場十二名で、かつての王位、準王位、三位や、数回出場のベテラン勢に挑戦した。

対局は、A・B二バートに分かれて、持ち時間三十分五分、以後秒読みトーナメント方式で白熱した対局が福岡県筑後地区

高田 伸二	五段⑤	有川四段	二場四段
福岡県豊・京築地区		木村五段	嶋田四段
二場 政己	四段初	江頭四段	瀬尾五段
長崎県		芝田四段	高田五段
濱口 博之	四段②	濱口四段	宮園五段
嶋田 一之	四段②	原岡五段	石原四段
佐賀県		秋本四段	徳丸五段
平山 真治	五段⑧	大城三段	原口五段
熊本県		有川四段	北村六段
熊本 圭支	五段②	木村五段	唐津五段
井崎 久雄	四段初	井崎五段	江頭四段
鹿兒島県		松本四段	芝田四段
原口 卓美	五段④	松本四段	平山五段
宮園 広志	五段⑤	濱口四段	原岡五段
宮崎県		原岡五段	晋久原五段
瀬尾 秀則	五段⑤	木下五段	秋本四段
秋本 博美	四段初	※二回戦	
大分県		有川四段	大城三段
唐津 義一	五段初	井崎五段	木村五段
徳丸 規好	五段初	松本四段	平山五段
沖繩県		原岡五段	木下五段
晋久原 安	五段⑤	※決勝	
大城 克友	三段初	松本四段	原岡五段
山口県		有川四段	井崎五段
山口 誠	四段初	松本四段	原岡五段
北村 公一	六段④	※決勝	
第十五回王位(沖繩県)		有川四段	井崎五段
木下 敏彦	五段②	松本四段	原岡五段
福岡県筑後地区		有川四段	井崎五段
有川 大輔	四段④	松本四段	原岡五段

文明が衰亡するとき

このやうな時勢の中で最近、ローマ帝国をはじめとするいくつかの文明の衰亡論が関心をあつてゐる。「知力ではギリシア人に劣り、体力ではケルト人やゲルマン人に劣り、技術力ではエルトリア人に劣り、経済力ではカルタゴ人に劣ると、ローマ人自身が認めていた(塩野七生)」。それなのに何故ローマ人が地中海からアフリカにいたるまで一大文明圏を築き、しかも長期にわたってこれを維持することができたのか。その興隆と衰亡とが歴史家のみならず世紀末にある我々に深い関心を抱かせるのであらう。

地中海の共和制にすぎなかつたローマがカルタゴとの覇権争ひに勝利し偉大な帝国を築いた背景には、ローマ人が当時の他の共和制の国民にはない徳性すなはち、ローマニアン市民精神による祖国への愛と忠誠をもち、視野の広い現実的な外交をすまうと共に宗教政策の上でもきまめて、寛容であつたことがあげられる。一方、その衰亡の原因については、北方からの蛮族の侵入、或はギリシア人やオリエント人奴隷の大量移入による人種混濁によつてローマ市民貴族からなるエリート階層が衰微したこと、版図拡大に伴つてローマ市民を中心とした共和制と市民精神が崩壊し愛国心の薄利利益追求の市民が私利が増加したこと、ローマ経済を支へてきた低廉な奴隷の存在条件を失つたこと、気候の変化による農業の衰退などが指摘されてゐる。とくに最後の気候変化説を唱へたハンチントンはその著書「気候と文明」の中で、「文明はある範囲の温度と湿度のとらでしか育たない」として気候の変化と共に牧畜その他による森林の喪失(レバノンやシリア島)が文明の崩壊につながつたと主張してゐる。この場合は気候が変化したのではなく人間が気候を変へたと云ふべきかもしれない。帝国末期のローマでは、悪徳、不正、浪費、奢移、美食、旅行が流行し、女性による性の開放が叫ばれ人々は制約的なスポーツに熱狂したと書かれてゐる。

暑中御見舞申し上げます

出光 出光興産株式会社

取締役 山本繁弘 福岡支店長

福岡市中央区大名2丁目8番26号
TEL 092-761-1831

第十七回 宗像大社

小倉百人一首カルタ大会

新緑が一番美しい六月、第十七回宗像大社かるた大会が十三日、二十日の両日、



宗像大社かるた大会の様子。宗像大社(主)と協賛する小倉百人一首を遊技用に創業し、古くから吾が国に伝わる和歌の心を伝える情懷教育の一環として徳川時代に一般社団法人として行われていた。このかるた競技は、現代も静かなブームと云われ、全国二百五十万人の愛好家がいると聞く(全日本かるた協会名簿)。

宗像大社かるた大会(主)と協賛する小倉百人一首を遊技用に創業し、古くから吾が国に伝わる和歌の心を伝える情懷教育の一環として徳川時代に一般社団法人として行われていた。このかるた競技は、現代も静かなブームと云われ、全国二百五十万人の愛好家がいると聞く(全日本かるた協会名簿)。

- ◎A級(四段以上) 四八名
 - 優勝 片瀬 亮子(早稲田)
 - 二位 石沢 直樹(東京都)
 - 三位 広本 幸紀(広島)
 - 四位 山藤 志帆(広島)
- ◎B級(三・二段) 三九名
 - 優勝 松永 浩治(熊鷹)
 - 二位 平木 太(熊鷹)
 - 三位 求野 順子(熊鷹)
 - 四位 中村 諭子(熊鷹)
- ◎C級(初段) 三八名
 - 優勝 山下 勝三(島根)
 - 二位 中河原 香(宗像)
 - 三位 中島 洋子(宗像)
 - 四位 橋口 佳代(熊鷹)
- ◎D級(高校以上二級) 二七名
 - 優勝 溝手 義史(九州大)
 - 二位 石橋 富美(福岡大)
 - 三位 野田 英一(鹿島大)
 - 四位 佐藤由美子(天分市)
- ◎E級(中学校) 三五名
 - 優勝 沼口 稔(熊鷹)

家が、青少年育成事業として情懷教育の目的を語る為、この大会が生まれた。

句の札を取る数秒の熱戦が終日繰り広げられた。各級の成績は左記の通りです。

- ◎A級(四段以上) 四八名
 - 優勝 小杉百美子(筑女)
 - 二位 廣田 信也(宗像)
 - 三位 吉松 弘貴(須磨)
 - 四位 波多江亜希子(須磨)
- ◎B級(三・二段) 三九名
 - 優勝 落合 浩一(豊田)
 - 二位 吉本 陽子(井野)
 - 三位 森山 優子(益和)
 - 四位 田原 花枝(益和)
- ◎C級(初段) 三八名
 - 優勝 許斐 俊子(福岡)
 - 二位 保田 好春(津津)
 - 三位 中野 保子(宗像)
 - 四位 種子田ムツ子(後都)
- ◎D級(小学校) 三二名
 - 優勝 許斐 俊子(福岡)
 - 二位 保田 好春(津津)
 - 三位 中野 保子(宗像)
 - 四位 種子田ムツ子(後都)
- ◎E級(小学校) 三五名
 - 優勝 日守 香織(豊田)
 - 二位 技本 真美(豊田)
 - 三位 大木 順子(豊田)
 - 四位 野中 裕美(美和台)

- 二位 森尾 阿紀(宗美)
- 三位 口石 和子(須磨)
- 四位 山口 綾(須磨)
- 五位 山口 綾(須磨)
- 二位 小杉百美子(筑女)
- 三位 廣田 信也(宗像)
- 四位 吉松 弘貴(須磨)
- 五位 波多江亜希子(須磨)
- 二位 落合 浩一(豊田)
- 三位 吉本 陽子(井野)
- 四位 森山 優子(益和)
- 五位 田原 花枝(益和)
- 二位 許斐 俊子(福岡)
- 三位 保田 好春(津津)
- 四位 中野 保子(宗像)
- 五位 種子田ムツ子(後都)
- 二位 日守 香織(豊田)
- 三位 技本 真美(豊田)
- 四位 大木 順子(豊田)
- 五位 野中 裕美(美和台)
- 二位 石橋 富美(福岡)
- 三位 野田 英一(鹿島)
- 四位 佐藤由美子(天分)
- 五位 溝手 義史(九州大)
- 二位 石橋 富美(福岡)
- 三位 野田 英一(鹿島)
- 四位 佐藤由美子(天分)
- 五位 沼口 稔(熊鷹)
- 二位 井上 英彦(千鳥)
- 三位 藤原 早代(須磨)
- 四位 藤原 早代(須磨)
- 五位 藤原 早代(須磨)

出光タンカー(株)

「MIYATA」還座祭

山口県徳山市、瀬戸内海の沖合、出光興産株式会社徳山製油所・原油陸揚施設「徳山シーバース」に整備された、出光タンカー株式会社の最新鋭原油輸送タンカーとして、三菱重工業株式会社社長長崎造船所で竣工と同時に宗像大神の御分霊を同船に奉祀した。航海十九年の水きに亘り、航海安全、無事故無災害並び

に乗組員の無病息災の守護神として奉斎され、出光興産株式会社全国の各地の同社製油所に中近東より原油を輸送、この間航海中、出入港時の事故等の災害に遭う事無く、大役を果たした。

祭典は、当社より山田祐宜外一名の神職が、出光タンカー株式会社の社務課長務第一部長佐々木茂氏、出光興産株式会社徳山製油所総務課長石澤昭人氏、タンカー

「MIYATA」船長藤山豊和氏外多数の関係者が参列のもと、厳肅に執り行われた。



「MIYATA」船長藤山豊和氏外多数の関係者が参列のもと、厳肅に執り行われた。

宗像大社菊花会

中央・玄海・河東中学校へ菊苗贈呈

毎年十一月に、西日本随一の菊花展(西日本菊花大会)を主催する、宗像大社菊花会(会長高田太助・会員千名)では、花を愛する豊かな心の育成と、青少年の情懷教育の一助となればと、宗像郡玄海町の玄海中学校と、宗像市の河東、中央両中学校に、菊の苗を贈呈した。

同菊花会は毎年当大社の境内に、大輪、懸崖、盆栽などの見事な菊花を展示、菊作り九州一を決定する大会を開催しているが、開催地の地元中学校にあたる、玄海中学校へは昭和六十一年より贈呈を続けており、宗像市の河東、中央両中学校へは一昨年より贈呈して

この還座祭を終えた後、同船は出光タンカー株式会社の所有を離れ、ギリシャ船籍のタンカーとして、船名・乗組員も新たに再び世界の海上へと旅立って行った。

本年の贈呈者は、遠賀芳栄会大山昭一氏外有志並に船長の長崎太郎氏で、六月十日午前十一時、菊花会事務局及び当大社専任が、各校の生徒会の代表に手渡した。

贈呈を受けた各中学校では、「一生懸命育てて、花を咲かせることで、生徒達にも育てる喜びを知ってほしい」と各担当の先生達も語っておられ、夏休みの期間に生徒が交代で登校して水やり等の世話や管理を行い、今年の菊花展へも出品展示することを目標に、全校生徒で栽培にあ

宗像大社歌会詠草

中村 吾郎 選

第三八五回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日、切

- 田熊 驚頭かつ代 芍薬を種えて五年目初咲きの今朝うすべにの花を開きぬ
- 名古屋 小田 喜一 咲き終えしつきの花がら摘み摘めば鉢も指も樹液に
- 大鳥 目原 節子 木々覆ふ雪に深風吹きつけて雪煙立ち山を越えゆく
- 大鳥 目原 節子 雨の日は部屋に挿したる額紫陽有田の古き小舎似あひて
- 大鳥 杉田 禮子 鳥に在る者の習性か夜半に聞く露風は明日の出漁思ふ
- 城南ヶ丘 中間日出子 朝からの雨ふり止まず稲の根のゆれれる間々をアメンボおよぐ
- 若松 高橋 忠實 汗流し下草刈りし甲斐ありて紫陽花の花柱に満つ
- 福岡東 桜井 ツ子 耳澄まし聴けばかさけき時鳥雨ふる夜の丘にしきき
- 福岡 本松 宣子 林檎剥く皮の長きを競ひたる日ありき林檎見れば惚はる
- 大鳥 河野 英子 三井寺の鐘の音色は清しく心にしみぬ詣て来しとき
- 武丸 中村さつき 張り切って袴姿の武田節これが最後か舞台に立り
- 福岡東 清原 絹代 記念館に東郷元帥直筆の皇國の興隆に立ちすくみいる
- 原町 八波 五月 今なき兄弟御伯の旧き家吉野桜が咲き盛りをり
- 徳重 石松や寿子 頂きし友の歌集に吉野ヶ里追想の歌をくり返し読む
- 名古屋 小田 留子 春雨に煙りてにむ街灯は朧にあわき虹をえがけり
- 自由ヶ丘 細川 絹子 待ちわびし紅き牡丹の八分咲き雨降る音を真夜に聞きみつ
- 吉留 白木うめめ 城山の緑の中に点々と桶の若葉が辨様様に萌ゆ
- 福岡 二宮 末子 我が庭に濃き紫の菖蒲咲く旅の疲れに花と語ろう
- 池田 小田 いせ 再びを還るなき息子の旅立に飛ばされて鳩大空に舞ふ
- 自由ヶ丘 杖 富美子 黄に熟れし麦の穂波はやわらかき五月の風に輝きゆるる
- 福岡 山田よし子 茶畑に揺えられてある扇風機教糸の香り乗せて廻れり
- 八幡西 山田 耕夕 庭木々の若葉それぞれ彩もつて初夏に入りゆく雨あとの朝
- 福岡 池浦千鶴子 豌豆を旅一杯に刺きをりて落し青虫の一匹に惚つ
- 吉留 高山 信子 苦勞かけし娘にすまぬと思いつつ日を過ぎし居り野菜つくりて

暑中御見舞申し上げます



福岡シティ銀行

支店長 池田 陽一郎
宗像市日の里一丁目二九一八
TEL 〇九四一三六六六七

支店長 赤間 支店
支店長 麻川 浩二
宗像市大字土穴字前田三〇二二
TEL 〇九四一三三三三四

西日本銀行

支店長 自由ヶ丘 支店
支店長 西 憲一
宗像市自由ヶ丘二丁目七七一
TEL 〇九四一三三三五一

支店長 日の里 支店
支店長 河波 良智
宗像市日の里一丁目六二〇四一
TEL 〇九四一三六一二八八一

支店長 福岡 支店
支店長 南 一六
福岡町大和町二七三八一〇
TEL 〇九四一四二二二二二

支店長 赤間 支店
支店長 高山 寛
宗像市大字土穴三九七一九
TEL 〇九四一三三三五六五

第七回式内社巡拝会

彦岐・対馬の古社をたずねて

式内社頭彰会九州支部

第七回式内社頭彰会九州支部巡拝の旅は、六月六日より八日まで、一泊三日の日程で、長崎県彦岐・対馬の十一社の巡拝が計画された。



昭和六十一年に第一回目が行われて、昨年で九州全域を巡拝したが、今年は再び同じ巡拝地を訪れる事にしている。

穏やかに晴れ渡った福岡空港に、北は東京より南は鹿児島までの参加者四十一名が集まり、対馬行き飛行機に乗り込んだ。対馬空港で、エンジンに鳥が飛び込むハプニングで後続の便に影響し、到着が四十分遅れたが、先遣部長の永留久恵先生が、長時間お待ち戴いたにもかかわらず、暖かく迎えて下さった。

九州全域には九十九の式内社が鎮座しており、この彦岐対馬には合わせて半分以上、五十四社が全島に散在している。今回は、それぞれが韓国済州道城山邑と友好交流を進めていることで行われたのである。このように、韓国の文化に触れることで相手を理解し、興味を持つことも国際交流の一つではないだろうか。

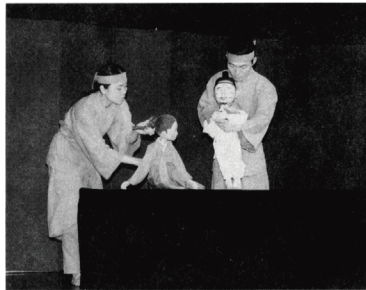
でも有名なものだろう。パソソリという楽器を持つパソソリが、登場人物のセリフから感情、歌、背景の音までを一人でこなす二重奏の韓国語である。韓国語は、言葉はわかりませんが、その迫真の演技から伝わってくるものがあり、会場を埋めた観客は、時には涙を浮かべながら熱心に見入っていました。

韓国の人形劇会を開催

韓国の現代人形劇を代表するソウル人形劇会の公演が六月十九日、アクシス玄海の「海と緑のホール」で開催されました。

公演の第一部では、民俗衣装のチマチョゴリを模した劇団員が韓国の遊びを紹介。この中には、日本の羽子板やこま回しに似たものもあり、日本と韓国の古(いにしえ)からの関係の深さを感心させられました。

公演の第二部は、この日の呼び名である人形劇の目に見えない父親を助けようとする少女の優しくも悲しい物語を描いたものです。この劇は、沈漬漬(シムチョン)と呼ばれ、韓国



の内の十一社を永留先生案内で巡拝する事になった。空港を出発してすぐ目に付いたのは、屋根が石で葺かれていた蔵であった。どの家もこの独特の蔵を持つっており、高床式で必ず母屋から離れている。食料、衣類、家具等が納められていて、住居が火事に合っても蔵は残り、当分の生活には困らない様に工夫されている。

大陸からの文化を受け継がれた生活様式が今でも守り続けられているのである。新築中の物も、屋根こそ瓦で葺かれていたが、その他はまったく昔のままであった。

車内で永留先生から、島の文化、歴史等の説明を聞いていたうちに最初の巡拝神社住吉神社に着いた。全員が昇殿参拝し、次の太祝詞神社へ向う。

そのお社も参拝時間が限られており、あわただしく巡拝は続いた。対馬は水田が少なく、現在も米は彦岐から購入している。今回は、到着後初めて目にする水田が赤米伝来の地であること。この米が今でも供えられて神社である。本殿はなく、裏山全体が御神山である。

本日最後の八幡宮神社は式内社ではなかったが、旧藩主、宗氏の崇敬篤く、しばしば社殿の改築も行なわれている。又、原野町の総鎮守として信仰も深い。

予定より随分遅くホテルに到着した為、汗を流す間もなく、会食となったが、名物「石焼き」を前にすると疲れも吹き飛び、夜が更けるのも忘れ、楽しい一時を過ごした。

明け二日目の七日も晴れ、バスは明治の頃、軍艦を通す為に掘られた海峡の万間橋にさしかかると、橋は後に掛けたものだが、わずかに百数十メートルの工事であったことが窺える。



八日、天気予報では雨であったが、午前中小雨程度で済み、勝本町聖母神社を参拝する。神社の前には、勝本の大徳が広がり、ここからは宗像沖ノ島近海に船団を組んで出漁する。今回最後の巡拝地である。天手長男・天手長比売神社を参拝し、ここに今年の巡拝会を無事終了し、芦辺港よりジェットホテルビナスに乗り込み、約一時間で博多港に着いた。

午後から水中翼船で彦岐に渡り、再び巡拝の旅は続く。彦岐最初の彦岐神社は、元祿の困難に心を悩まされた龜山、後宇多天皇を始め、彦岐で殉難した少資時公及び、麾下の將士を奉祀する社で、小高い境内より玄徳が展望でき、正に値千金の眺めであった。

次に住吉神社を参拝する。神社前の台風に東山の大半分が倒木したが、幸運にも本、拝殿ともに格好なかつた。二日目の予定通り巡拝し終え、郷土館のホールに旅装を解き、風呂で疲れを落とし、夜の懇親会は、前日に増して賑い、自慢の歌、踊りに花が咲いた。最後は養父支部長の歌で、全員が炭坑節を踊り、終始和やかに懇親会の内にお開きとなった。

社務日誌抄

- 六月一日 月次祭
- 宗像郡遺族会役員会
- 韓国文化放送取材の為に本社
- 中村学園短期大学講師 加藤静江氏講演の為に本社
- 六月二日 若小牧東部石油 備蓄機取締役業務部長 天野欣也氏外一名参拝
- 協賛会四十名来社 神室館 館拝観
- 山崎拓事務所塚田秘書 建設省九州地方建設局 北九州国道工事事務所 小倉出張所々長大東昌
- 六月三日 宗像大社氏 子会評議員会
- 六月四日 出光美術館 研修生五名来社
- 六月十四日 支海町老人クラブ二〇名境内清掃奉仕
- 六月十六日 主基地方風俗舞保存会
- 六月二十日 大和ハウス二十名参拝
- 出光興産福岡支店長 山本繁武氏参拝奉任奉告書発行

- 生氏、建設専門官平島秀治氏、同技術係長堀康雄氏協議設置の件に参社
- 六月八日 宗像東小学校一〇〇名社会自習の為に本社
- コスモイト一行八十名参拝
- 六月九日 皇太子殿下御成婚奉生舞奉舞行
- 出光興産(株)千葉製油所 外間連合社参拝
- 六月十三日 第七回宗像大社小倉百人一首かるた大会
- 六月十四日 宗像大社旧職員西正氏、上野氏刀剣調査の為に本社
- 六月十五日 月次祭
- 出光興産(株)横濱支店並若陽会二十名参拝
- 出光興産(株)店主若長稲用和雄氏来社
- 六月十六日 村上文化庁建物支所外一名来社
- 六月十七日 神興小学校四年生二十三名、河東小学校四年生一〇五名遠足の為来社
- 出光興産(株)福岡支店長 沖橋一郎氏退任挨拶の為に本社
- 六月十八日 奈良県原野古吉野研究所林部学委員来社
- 六月二十日 第十七回宗像大社小倉百人一首かるた大会
- (株)で、販売推進部長 高橋次男氏、外商部課長 長山崎勇氏、販売推進部課長 間瀬正之氏来社

暑中御見舞申し上げます

<p>福岡中央信用組合</p> <p>代表理事組 長谷川 裕</p> <p>宗像市大字東郷六一一</p> <p>TEL 〇九四一三六一四二一〇</p>	<p>宗像農業協同組合</p> <p>支店長 島田政雄</p> <p>宗像市自由ヶ丘五九七五二</p> <p>TEL 〇九四一三三三三三二二</p>	<p>福岡中央銀行</p> <p>支店長 自由ヶ丘支店</p> <p>宗像市自由ヶ丘五九七五二</p> <p>TEL 〇九四一三三三三三二二</p>	<p>福岡赤間支店</p> <p>支店長 山田 勇</p> <p>宗像市大字土六三八八一</p> <p>TEL 〇九四一三三三三二二</p>	<p>福岡銀間支店</p> <p>支店長 花田時雄</p> <p>福岡町二七二六一五</p> <p>TEL 〇九四一四二二二四六</p>	<p>宗像支店</p> <p>支店長 平野厚生</p> <p>宗像市大字東郷九一八一</p> <p>TEL 〇九四一三六一二〇一七</p>
--	---	---	---	---	--

